

Ⅶ-78

漂着ゴミによる海岸汚染（その2）

防衛大学校 正会員 山口晴幸
 長岡高専 正会員 ○福田 誠
 三井建設㈱ 正会員 黒島一郎

日本海沿岸に漂着するゴミの実態を定点観測するために、佐渡ヶ島を含めた新潟県の6海岸を設定した。平成10年11月に佐渡ヶ島2箇所、本州沿岸4箇所で、漂着ゴミの国籍区分と種類区分の調査を実施した（図-1）。日本海沿岸には、北上する対馬海流に乗って南方からの外国製ゴミもかなり漂着していることを、既に確認していた。図-2と図-3には、6箇所の海岸で調査した総ゴミ、日本製ゴミ、外国製ゴミの個数も示している。総ゴミ数は、日本製ゴミ、外国製ゴミ、不明ゴミの個数を示している。不明ゴミはラベル等の欠損によって、日本製か外国製かの判別が不能なものである。図-2に示すように、総ゴミ数が1000個以上越える海岸が6箇所中3箇所あり、これらの海岸では、足の踏み場も無いほどゴミで覆われていた。外国製ゴミ（写真-1）も、100個以上の海岸が3箇所確認された。外国製ゴミ数は3~16%占め（図-4）、平均的には総ゴミ数の約1割に当たる（図-9）。外国製ゴミの約6割が韓国製、約3割が中国製で、台湾とロシア製も含まれている（図-5と図-10）。漂着ゴミの70~80%はプラスチック類（図-6）で、外国製ゴミ、日本製ゴミ、不明ゴミのタイプによってあまり変わらない（図-8）。このような漂着ゴミの実態を見ると、佐渡ヶ島では日本製ゴミと外国製ゴミの双方による海岸汚染が指摘されるが、本州側ではむしろ日本製ゴミの問題が重要と言える。

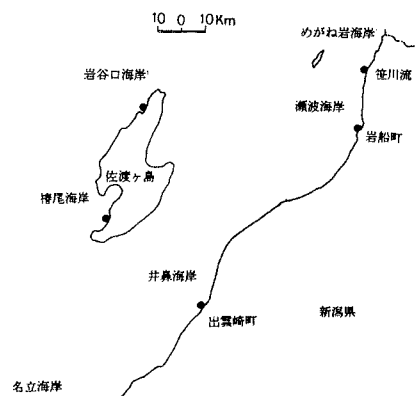


図-1 新潟県沿岸での調査地点



写真-1 外国製ゴミ（佐渡ヶ島岩谷口海岸）

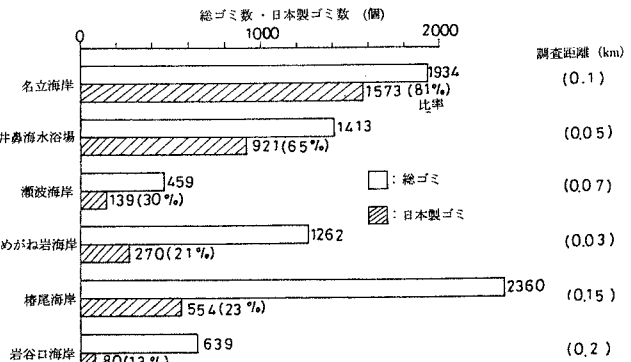


図-2 総ゴミ・日本製ゴミの実態

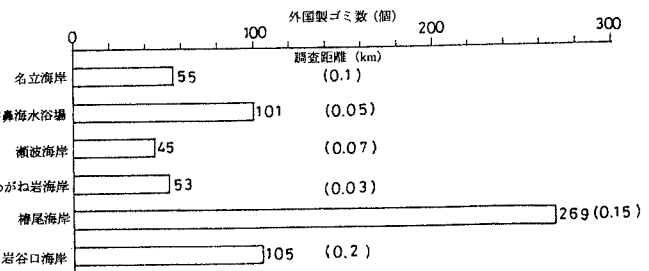


図-3 外国製ゴミの実態

キーワード：日本海沿岸／漂着ゴミ／日本製ゴミ／不明ゴミ／海岸汚染

〒239-8686 横須賀市走水 1-10-20、TEL：0468-41-3810、FAX：0468-44-5913

〒940-8532 長岡市西片貝町 888、TEL：0258-34-9273、FAX：0258-34-9284

〒261-0023 千葉県美浜区中瀬 1-9-1、TEL：043-212-7545、FAX：043-212-7540

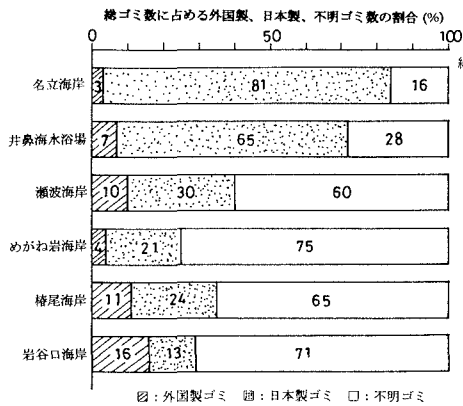


図-4 漂着ゴミの実態

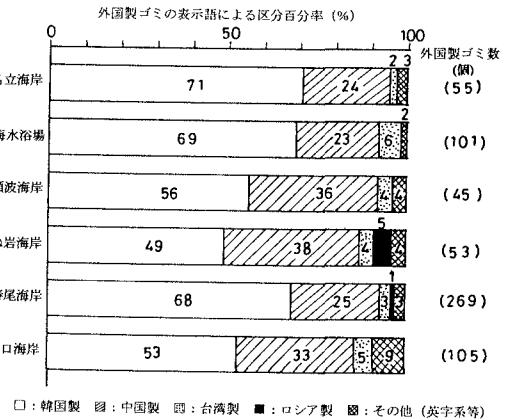


図-5 外国製ゴミの国籍

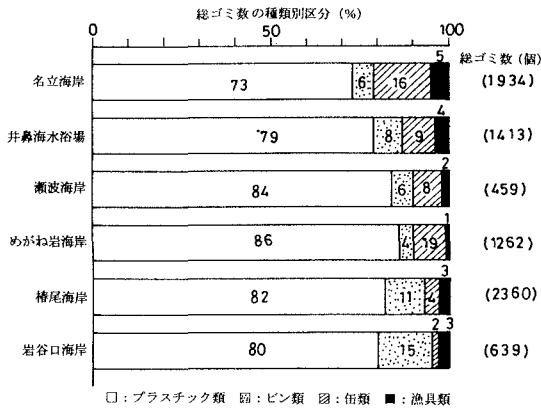


図-6 漂着ゴミの種類

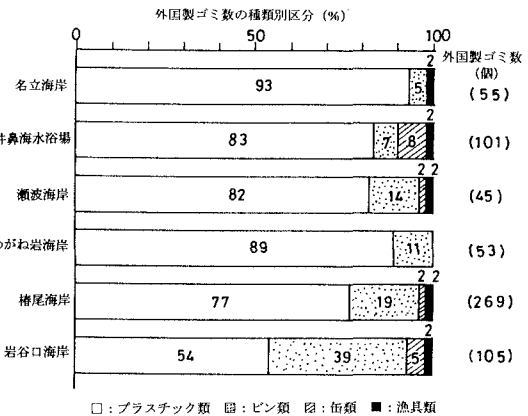


図-7 外国製ゴミの種類

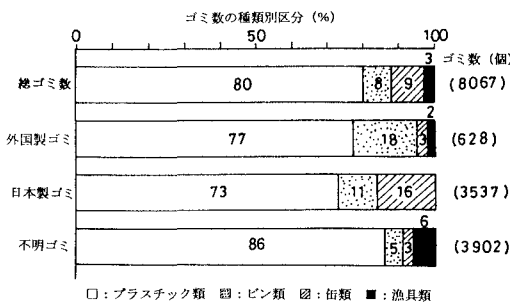


図-8 各ゴミタイプでの種類 (全調査地点総計)

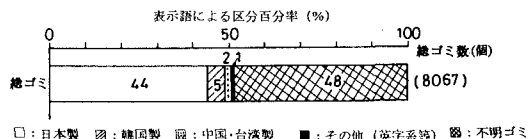


図-9 総ゴミの国籍区分 (全調査地点総計)

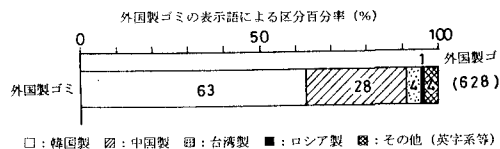


図-10 外国製ゴミの国籍 (全調査地点総計)

(参考文献)

- 山口 (1998) : 大量の漂着ゴミ日本列島の海岸線を襲う、生活と環境、平成 10 年 9 月号、(財) 日本環境衛生センター、pp.33~41.
- 山口 (1998) : 外国から漂着するゴミによる海岸汚染、土木学会誌、第 83 巻 3 号、pp.60~62.